

「木ズナのもり」－多様性の融合による クリエイティビティー

ながれ

大場 龍夫 (おおば たつお/株式会社森のエネルギー研究所 代表取締役/

2014年度「経営者」環境力大賞受賞)

●株式会社森のエネルギー研究所と自己紹介

(株)森のエネルギー研究所は、今から21年前にできた会社です(略称:森エネ)。森エネは、持続可能な森林・林業そして木質バイオマスの活用によって、化石燃料による二酸化炭素の排出を減らし、地域を活性化させ、持続可能な社会への転換に貢献する調査、研究、計画、設計、実施、運用に至るプロジェクトを年間30~50実施しています。

森エネのミッションは、「私たちは、森林資源の多様な性質を最大限に活かすことを通じて、人が森に感謝し、人と森のつながりを再生し、地域を活性化し、地球温暖化を防止しながら、豊かな持続可能な社会への転換に貢献すること」です。創業してから今までの21年間を振り返ってみると、社会はある程度問題意識を持ち、部分の解決はするようになったものの、一方で全体の問題、例えば地球環境問題は全く解決されていないどころか、さらに深刻化しているという状況です。そのため、さらに深い問題意識が必要であり、全体の問題を解決するために世界が一つになって取り組まなければならないことは明確です。

このような最中、世界はコロナパンデミックになり、会社でも在宅勤務が当たり前になって、本社はあまり人がいないガラガラ状態になりました。このままでは部屋が広すぎるため、縮小するか、逆に理想的なモデルをつくるか迷いましたが、意を決して理想を追う決定をしました。それが「木ズナのもり」です。以下に概要をお伝えします。

●「木ズナのもり」設立の背景

「木ズナのもり」は、同じ地域で福祉事業

を展開する知創(株)の発知社長との出会いによって成立しました。1Fには、知創が運営する障がい者就労支援施設が入所し、2Fには森エネ本社が入所するコラボレーションオフィスです。協業としては、森エネの社内起業によってできた(株)森のいいこと(伊藤 明香 代表取締役)が、薪づくり、木工品の企画、ドライフルーツ・ドライ野菜の企画・販売を行い、知創がその商品を障がい者と一緒に製造するという役割分担です。

始まりは、プロジェクトリーダーからこの人だと発知社長を引き合わせてもらい意気投合したことからでした。一緒にやることに決めたポイントは、発知社長の問題意識でした。森エネのテーマは、一言で言えば「自然と人の分離断絶から、自然と人の融合を図ること」ですが、発知社長の起業の問題意識をお伺いすると、それは「障がい者と健常者の壁をなくすこと」でした。これを聞いて、「ああ、これは一緒だ!」と感動のスパークが起きました。人は、出会いによって世界が広がっていくものなのだと改めて思います。

知創のメンバーを含め、この施設を建設するために、これまで繋がりがあった、またこの機会に繋がりを頂いた多くの企業・地元の方のご協力がありました。このプロジェクトを機会に、さらに深い関係性をつくり、未来に向かって新たなプロジェクトの共同実施に繋がる種にもなって欲しいと願っています。

●木ズナのもりの名称由来と多様な意図

「木ズナのもり」の名称は、社内で公募して1位を獲得したものです。意味は、多様性に溢れる仲間が集まり共創・協業が生まれ、

育っていく基地のような存在となれるようお願いを込めています。絆を木ズナに掛けて、多様な繋がりによって多様性の結合がさらに多様性を生み出す世界を表現しています。漢字とひらがなとカタカナという3つの表現ができる日本の言語の多様性の特徴も取り入れました。

「木ズナのもり」の背景には、プロジェクト自体に多様性の結合による創造をするため、様々な人、様々な企業・団体、様々な意図を結集しています。それは、多様なタイプの人々が、多様なポジションで一つのゴールを目指していく、サッカーゲームのようなものとイメージしています。

●異質性が融合する和の国・日本のミッション

「木ズナのもり」も楽をしようと思えば、始めなかったと思います。事務所を縮小すればコストも削減できるし、余計な苦勞もしなくて済むからです。楽ではないからこそ葛藤も起きます。例えていえば一方はブレーキで、もう片方はアクセルです。ブレーキは、危険を避ける方ですし、アクセルは危険を乗り越える方です。もし心からの意志の力を使わないで、生命レベルの脳の働きに任せていれば、アクセルとブレーキを同時に踏んでしまい、エネルギーを消耗し、最終的にはパワーが無くなっていくことでしょう。人間

は、これを無意識のうちにやっています。

しかし、何をすればよいかは明確になり、アクセルとブレーキを気持ちよく使い分けて、真っすぐに実践行動ができれば、無駄なエネルギーの消耗はなくなり、エネルギー効率が最高になり、環境をどんどん変化させていくことができるので、環境改造が楽しくなり、善い循環が起き、ますます行動に拍車がかかっていきます。そして、未来を切り開き、人間の可能性を開いていく選択により、持続的な発展のために環境を改造していく能力が大きくなっていくことでしょう。明治維新のように、過去に囚われずに、新しい何かを次々と生み出していければ最高です。

持続可能な社会になるためには、全世界、全人類が一致協力して、問題を次々と解決していく必要があります。そのために、多様な異質性がバンバン融合していける共通土台が必要です。全ての観点の障壁が取り払われ、多様な異質性の融合を自由に起こせる共通土台を持った時、問題を解決するクリエイティビティが爆発していくことでしょう。

日本は和の国であり、真の和は、多様な異質性が融合する姿です。日本からそのモデルが生まれ、世界をリードすることで、人類の未来が花開いていくはずで、それが日本のミッションであると確信します。私たちのチャレンジがそのヒントになれば幸いです。



「木ズナのもり」に込めた多様な意図

「木ズナのもり」の施設概要

- ・所在地：東京都青梅市東青梅 4-3-1
- ・延床面積：196㎡（1F98㎡、2F98㎡）
- ・構造：木造2階建て
- ・竣工：令和4年1月
- ・主な国産木材と産地
柱材：スギ、ヒノキ（多摩産材） 建具：スギ（多摩産材）、
床：クリ（福島県）、テーブル：モミ（多摩産材）
木材使用量：36m³（CO₂固定量：28t・CO₂）
- ・エネルギー
ZEB ランク：「ZEB」年間エネルギー消費量が正味 Zero
太陽光発電装置：出力 11.9kW、年間発電量：12.93MWh
蓄電池：鉛蓄電池（CFB カーボンフォームバッテリー）
蓄電容量：26.4 kWh
薪ストーブ：暖房用、ドライフルーツ製造用 出力 8kW